石原 保：ナガサキアゲハの分類學及び實驗遺傳學的知見

ナガサキアゲハは學名 *Papilio memnon* Linné, 1758 と云ひ，原産地はルソン島である．その他本州(山口縣)，四國，九州，琉球，臺灣，支那，海南島，馬來，ビルマ，印度，スマトラ，ボルネオ，ジヤワ等に分布し，少からぬ亞種〔subspecies〕及び型〔forma〕に分たれて居る．亞種とは地域的に固定した，即ち topomorphic なる系統を云ひ，型とは地域的に限定されぬ系統を稱するものである．本邦內地(琉球を除く)に産するものは雌雄共に無尾の，最も北方に分布する特異なる亞種であり subsp. *thunbergii* Siebold, 1824 と云ふ．琉球産は subsp. *pryeri* Rothschild, 1895 といふ夫と別の亞種であつて，普通雌雄共に無尾であるが，forma *esaki-nakaharai* Kato, 1933 といふ雌に現はれる有尾の型が知られて居る．臺灣産は又別の亞種 subsp. *agenor* Linné, 1764 であつて，この原型は雌雄共に無尾のものであるが，雌には數個の別の型，即ち無尾型としては forma *alcanor* Cramer, 1764 ; f. *heronus* Fruhstorfer, 1902 ; f. *titania* Jordan, 1909 等，有尾型としては f. *distantianus* Rothschild, 1895 が混棲して居る．之等の雌に發現する型は原型とその色彩形態を著しく異にし，一見別種の如き感があり，最初別種と考へられて記載されたものもある．かやうに本種は同一地方に於て雄の型は1個でも雌に數型を産するのを普通とする．

亞種 subsp. *agenor* Linné, 1764 に於て，雄は原型の1型に對し，雌に現れる3型，即ち原型，forma *laomedon* Cramer, 1775〔無尾〕及び f. *achates* Cramer, 1779〔有尾〕に就いてなした J. C. H. de Meijere, 1910 の著名な研究の結果，之等の有する因子は雌雄同様であつて一部の因子の作用の雌に於てのみ表現される，所謂單性多型〔unisexual polymorphism〕なる事が明にされ，上記の本邦に於ける例もこの遺傳學的說明で解釋する事が出來よう．

外國に於て蝶類の遺傳學的研究は決して稀ではないが，本邦に於ては變異の研究はあつても眞の遺傳學的研究は皆無のやうである．人々に親まれ易い蝶類の遺傳學的研究が何故本邦にないのであらうか？．蝶類の卵は一般に比較的容易に得られるのであるが，多くの蝶が普通の飼育箱の中では交尾せず，從つて受精しないのである．この多くの蝶の狹處で交尾しない特性，即ち eurygamy を一般の遺傳學者が無視した爲，たとへ試みられても成功しなかつたのではなからうか．蛾類の多くは stenogamy であり系統の維持は比較的容易であるが，多くの蝶類に於てその系統を繼續させるには相當の設備を必要とするものである．

本種は周知のやうに第二次性徵が顯著に發達して居り，臺灣産の見事な雌雄型が記錄されて居る．

本種の幼蟲の食餌植物はヘンルウダ科 (Rutaceae) のもので *Citrus* 屬の果樹，即ち柑橘類の害蟲とされ，福岡市附近では夏蜜柑及び溫州蜜柑にその被害が認められた．福岡市附近で年三世代を繰返すものと推定され，私は今年，九州産のものを飼育觀察し，他の近似種と比較してみた．その概要は採集と飼育，VI (9)，210—215 挿圖6，1944 に圖說したから夫を參照されたい．